

1月(笑)日 昨夜と同じくらい寒さやわらぐ  
 三角公園で 新谷のり子さんと新井英一さんのライブが  
 あった。私は遅れていったので、新谷さんの歌はきけなかった  
 けど、新井さんのは、なんとか最後の方にまに合ったみたい。  
 舞台とみんなが、とけ合ってるようで いい感じだった。

今回のパトロールでは、自転車でもあったのが 初日から  
 2-3日だけ。あとは 人手がないということもあって、  
 無しにしてきた。無いなら無いでいけるもので、やっぱり歩いて  
 まわるのがいいなあと感じている。ゆっくりまわって、息を  
 ひそめて、私が日頃何気なく通りすぎる街を歩くほうが、自転  
 車でより広くまわって おっちゃんらを見つけ出すことより、  
 ずっと いいんじゃないかと……。

歩きながら、おっちゃんをみつけて、しゃかみ込んで 声を  
 かける。でも、この頃 私はあまり声をかけないでいる。しっ  
 かりフンでくるまっている人は、ベテランさんで、わざわざ  
 起こすのは わるいなーと思うし、寝息を確認したら、そっと  
 離れる。ごそごそ動くのが、毛布ごしにみえる時は、少し安心  
 して、それでも小さく声をかける。何度か、声をかけると、  
 びっくりして、とびおきた人がいて、その時の顔の表情は、

資料班より

仲間を獲物とする越冬にすぎない。始まる前に  
 私か思った事です。その為には仲間が参加で  
 必要事項をめぐつくる事ですが、資料班は前段  
 のたき木あつめが中心の任務になつていて、  
 労働者といふ、しよにたき木を拾いに行くとい  
 う様な事にはなつていない。三角公園の近  
 くにコホチの現場でもあれば、みんなでリヤ  
 カーで取りに行くという様なこともできる  
 のだが、残念なことに、集める人、たき木に  
 あたる人と分れてしまつて、いる。それとスケ  
 ジュールが壊れられ、何日までどの位のた  
 き木をくという事を設定されている。たき木  
 をないし人な集まらないうえにスケジュールがこ  
 なせないという事だ。

たき木をくめしに受けても同じだと思ふ。  
 若は、すき腹が身にしみたら行政をうつらめ、  
 寒さかこたえたら面成署をのろえと訴えか  
 けたものだ。又又老衰のぐてたなつてしまっ  
 た。



以上

炊事班より

日付	12/30	31	1/1	2	3	4	5	6	
AM 6:00		198	246	248	325	270			
PM 1:00			448	810	550	300			
6:00	218	351	436	663	740				
9:30	250	350	272	650	400	190	215	212	
弁当	50	78	50	72	59	73	25		
おにぎり					478				
のべ	518	977	1452	2443	2552	833	240	212	計 9227

日産全場総決起集会

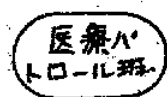
主催 全国日産労働組合協議会  
 (日産全場)  
 一月十二日、午前九時半  
 玉姫公園

佐藤氏虐殺ハケ年弾劾!  
 山岡氏虐殺ハケ年弾劾!  
 金町二家解体!  
 野重丸死文書粉砕!  
 PKOー海外派兵阻止!

あなたはやさしくかくみてる  
 わたしは傷を持って  
 でもその傷のところから  
 何だかやさしくみてる  
 さらった年賀ハガキの中の詩を想った。

ハオモテより  
 ってやってきた親子三人、Iさんは、陸軍と持  
 つ息子とうでを組んで南まわりをまわる。ヤミの  
 中から彼女のふくよかな笑みがこぼれる。彼女に  
 さらった年賀ハガキの中の詩を想った。

ハオモテより  
 ってやってきた親子三人、Iさんは、陸軍と持  
 つ息子とうでを組んで南まわりをまわる。ヤミの  
 中から彼女のふくよかな笑みがこぼれる。彼女に  
 さらった年賀ハガキの中の詩を想った。



長い野宿の生活のいろいろを感じて、「あー」と思ってしまう。  
まったく、こちら側の一方的な思い入れやら、まさに土足で  
他人の家にあがる感じがしたり……。

何もかぶらず寝てるおっちゃんに出会った時に、先に支援の  
人が声をかけて、それも突っ立ったままだったのもあって、  
「うるさい！ おきとるんじゃ！ はよ行け！ うるさい！」と  
くり返し言われた。その場は、それ以上どうしようもなく  
「ごめんね」と言って行きすぎたけれど、「あれだけ元気やっ  
たら大丈夫」と年配の支援の人が言っていたけれど、そのことは  
というのは、何か、ごうまんやなーと感じてしまう。

「愛の更年期」じゃないけれど、年とともに、体力は低下し  
ているのを感じる今日この頃。

やりたいことや、つき合いたいことや、いっぱいあるし、  
そんな中で、自分も充実したいけれど、体はそれを許さない。  
だから、体力を使わず、じーと(人)、みんなの顔をのぞき  
込んで、あー、Mさんはこうして、こんな表情を、相手に気持  
を伝えるんやなー、Bはこんな風にして、Tさんの眼は、今

こんなんやなー、といった具合に、いろんなことを感じてま  
す。

パトロールも、もうあと4回。ゆっくり、静かに、すまじく  
感じたい！

ふも、にぎやかなんよねー！

華蓮(けん)



1月 日

今日は昼雨がふっていて雨があがったとはいえ、アスファルトはビショビショ 冷えこみそうだ。

今日は、パトロールにまわる人が少ない。でも何年かぶりに会う顔もちらりと見えて、うれしくなる。気をひきしめてまわっていこうと思う。

ずーっとまわって 三角公園につく。集中期がおわって大きなたき火はなくなつたけど、きのうまでは、舞台の上は何組ものふとんがあって何十人かの人か寝てたんだけど、今日は、雨のためか、みんないない。あとで聞くと、朝雨がふる前に、ふとんをもって、雨があたらない所うつたらしい。

四角公園を出た所で、ワンカップをもった労働者と会う。「めしはないか。腹へった」「今日は べんとうもってまわっていないねん。センターの前にはふとんしいてあるから いっしょにいか」「めしはないねんあ、たらええわ」 いっしょにまわっている人が「まだ炊き出し残ってるかもしれへんな」といってその人と いっしょにセンターまでいく。

今日だけじゃなくて、よく、「腹へった。めしはないか」と言われる。今日めたいいにセンターの前で炊き出しをやっている時は、センターに行ったらあるよと答えるけど、やってない時は「今日は べんとうないねん。ごめん」と答える。「何日もめしはべてないねん」言われて、胸につまるけど、でも、そんな思いするするひきずっていくしかないと思う。

市営住宅の下で、何人かの人か、毛布とかふとんにくるまって寝ている。寝入っている人に声をかけると起こしてしまうので、布団をさわって、雨でぬれていけないかどうかだけみて、寝いきをきいて、まわっていく。

1月 日

仕事を放り出して、毎日出ていった医療パトロールも今日でおわる

私はどこで生きていくんか、私は、どこで生きているんやと思ひ、野宿者と出会うたんびにキリキリと何か、自分自身にねじまれている。何ていったらいいかわからないけど、やっぱり、その中で"カ"もらっている。

5月に、日本を出たらいつ帰ってくるかわからないし、  
帰ってこないかもしれないな……と、思ってたけど、  
越冬やっていく中で、やっぱりいつかは、釜ヶ崎に  
帰ってこよう！と、思った。

からこ  
桂子



越冬闘争をふりかえって

1992. 4. 21.

ふるさとの家に赴任して2年半。釜ヶ崎での越冬闘争に3回立ち会ったことになる。初めての越冬ではもの珍しさが先に立ち、たった一晚だけ三角公園で焚火の寝ずの番に参加したほかは、もっぱら見て回るのに精一杯であった。2度目の越冬のとき、医療パトロールに毎晩ついて歩き、野宿する労働者に対するリーダーたちの共感に満ちた関わりに感銘を受け、また、初めて人民パトロールに加わって釜の労働者の熱と誇りを感じ取ることができたように思う。そして、今回、私にとって3度目の越冬であるが、もう一步踏み込んで参加したいという思いが強く、時間の都合のつくかぎり、炊き出し班の手伝いをさせてもらった。

越冬実の学生たちの若い力の結集もさることながら、特に活動家でもない労働者たちが組合の人たちと共に昼夜を分かたず炊き出しの活動にはりつき、目を赤く充血させながら水汲み、下ごしらえ、煮炊きから、食器洗い、後片付けにいたるまで黙々と働いていたのには頭が下がった。報酬は何もない。しいて言えば、仲間と食べる炊き出しのうまさ、仲間のために働く誇りだろうか。ほかの班についても同じであったろう。

昨年10月のバブル経済の崩壊による景気落ち込みのしわよせは、労働市場構造の最底辺にもろに現われ、越冬闘争の直前の時点で、寄せ場釜ヶ崎の労働者の「現金」就労率は前年度の50%に満たず、「契約」を求める飯場のマイクロバスもほとんど姿を見せなくなっていた。夜回りをしていても、「野宿は初めて」と言う労働者をよく見かけた。このような状況の中での越冬闘争なので、イライラ、ギスギスのすさんだ空気を私は予測し、また覚悟もしていたが、実際はそうではなかった。むしろ、ある意味での落ち着きと盛り上がりがあったように思われる。労働者自身が参加できた卓球、相撲、餅つきをはじめ、舞台でのカラオケ、新谷のり子の歌や各グループの演奏を、

みな心から楽しんでいるように見えた。

炊き出しが充実していたことは、その理由の一つに挙げてよいかもしれない。炊き出しは多いときには1日5回、しかもそのつど違った物を提供することができた。越冬闘争の拠点であり労働者の「リビング・ルーム」でもある三角公園にズンドウを据え、みなの前で米を研ぎ、ジャガイモの皮をむき、白菜を切り、味噌汁をし、盛り付けをする。いろんな手が加勢してくれた。労働者仲間の手作りの味はいいものだ。

焚火が豊沢に燃え盛るのもよかった。じっと火を見詰める人、ゴロリと横になって背中をあぶる人、足を抱えて火にかざす人、火影を頬に映しながら酒樽を中に円陣を組んで談笑する人……。多少とも腹に物が入り、焚火を囲んで大勢の仲間がいるなら、少々の不安材料は連帯の気迫で乗り越えられるのかもしれない。

しかし、仕事がないということは不安材料としては決して小さなことではない。生活の基盤を失うことである。このような悲惨な状況の中で労働者の間に平静さとそこそこの盛り上がりを見ることができたのは、不況に負けまいとする労働者自身の不屈の抵抗エネルギーに負うところが大きかったように思う。ここを見過ごしてはならないだろう。

それにしても、少し気に掛かることがある。確かに越冬のいくつかの場面で多少の盛り上がりはあったにしても、全体としては活動家と支援グループの越冬闘争という印象は否めない。この点に関しては前回、前々回と同じである。協友会の活動も同じ問題をかかえている。活動をしようとする側と大多数の労働者たちの間に、どこかズレがある。私たちが釜の中でもより底辺に立つ労働者の感性にまだ十分に感応しきれないまま、動いてしまうからなのだろうか。

通年の夜回りをしていて知らされることは、現役で仕事に行きながらもしばしば野宿をせざるをえない労働者たち一人ひとりの内には、「自業自得や」

という己を責める思いと同時に、差別と切り捨ての社会構造に対するやるかたなき憤懣を抱えているという事実である。おとろえた体力に見合う軽労働供給の渴望がある。病院や施設のずさんな扱われ方に対するイラマチもある。中でも「しのぎ」の横行に対する恐れと怒り、警察の怠慢に対する憤りは切実である。

越冬期間に得られる労働者たちの憩いと連帯の体験が、日本社会の構造的なひずみに目を向けるゆとりを生み、行政と公安の正義に反する体制に怒りを新たにできる機会となればいいと思う。不正に対する怒りは発散するほうがいい。この怒りが押さえ込まれたり自らいなしたりするとき、人は人間らしさを失っていく。「釜は昔ほど人間のぬくもりを感じさせなくなった」という言葉をときどき聞く。もし、そうだとすれば、それは憤りの気を抜く「安全弁」が方々に取り付けられたからであろう。労働者の怒りを弱め、薄れさせていたのは、釜の労働者たちのために、と言いながら、既成の社会構造にのっかってあれこれ手を差しのべる「善意の人たち」であったかもしれない。不正に対する怒りは人の痛みを思いやるやさしさと同じものであることを、確認しあえるような越冬闘争でありたい。

反省を込めて・・・（ほんだ てつろう）

## I. 連帯会議活動報告

- ◇. 12・8 第22回越冬支援集会（池田浩士先生講演、釜日労、山谷争議団員等々）
- ◇. 12・15 越冬学習会
- ◇. 12・25 第22回越冬闘争
- ↓ 1・4 対市抗議行動 1・7 ブッシュ来阪阻止闘争に参加
- 1・8
- ◆. 越冬以降
- ◇. 1・12 山谷現地闘争
- ◇. 1・13 第8回大中公判闘争—細井医師に対する反論大成功!
- ◇. 1・26 越冬闘争報告感想会

## II. 活動内容

第22回越冬闘争では、主に医療班・人民パトロールを軸に活動しました。

釜ヶ崎に於ける医療は、大和中央病院の差別・殺人医療にみられるように、「棄民化」—野垂れ死攻撃と一体のものとして存在しています。私達はこれを許すことなく、医療班活動を仲間と共に担い抜きました。（詳しくは医療班報告を参照）

もう一つの柱として、越冬の集中期に行われる人民パトロールに参加し、機動隊の制動をはねのけ、労働者と共に闘い抜きました。

厳しい冬とアブレ地獄をはね返しながらか、山谷の越冬にも派遣し、釜ヶ崎—山谷を貫いた越冬闘争として最後まで貫徹しました。

## III. 越冬闘争総括の視点

### (a) 越冬の原点に立ち帰る

私達は常に越冬の原点に立ち返って、もう一度深く今越冬闘争がどうだったのかを点検していく作業を早急に推し進める必要があるのではないかと考えています。

何故越冬をやるのか。日々野垂れ死を強いられている釜ヶ崎労働者の現実には何処まで迫りうるのか。即ち、何が出来るのか、何をすべきなのか、を再構築していく必要があるのでは。

「一人の餓死・凍死者も出さな！」「生きて奴らにやり返せ！」という釜ヶ崎—寄せ場労働者の怒りの叫びをスローガンとして、現実のものとしていくためにはどのような

闘いが必要なのか。この点を踏まえて、そのために必要不可欠な活動とそれを担う体制としての「班」を措定していく。越冬全体及び各班の活動（闘い）が有機的に結合されて、かつ、分業に終始することなく一人一人が責任を持って担いきっていくために十分に論議を煮詰めて定めていく必要を感じています。

### (b) 越冬実の団結をいかに保障していくのか

釜ヶ崎には被差別大衆・被抑圧民族が多く存在しています。更に様々な階層の人々が越冬闘争に参加しています。彼らとどのような連帯の絆を作っていくのか、私達に求められている課題です。と同時に、私達の闘いの内実をより一層深めていかなければならないと痛感しています。とりわけ女性差別問題の論議が中断してきている現実を見るならば、それは明らかです。

この事は別の言い方で言えば、越冬実の団結の質であると考えます。越冬実を構成する各団体・諸個人、当該一支援、各班との関係に於いて何処まで信頼関係があるのか、この間の論議は団結の質が越冬闘争、そして釜ヶ崎労働者との関係性の中で検証されているのではないのでしょうか。もっと突っ込んだ論議を、団結を作り出せるような噛み合うような論議として私達も行っていきたいと考えています。それが釜ヶ崎労働者との真の団結を作り出していく道筋ではないのでしょうか。

各班も「専門化」している現状の中で、連携をどう作り上げていくのか。もっと論議を尽くしていく必要があると思います。

## IV. 今後の取り組み

- ◆ 大中糾弾実の一員として、24デー、裁判闘争を闘う
- ◆ 連帯会議として独自の学習会・集会を積み重ね、私達自身の闘う内実を打ち固めると共に、寄せ場の恵吹を伝え、討論しあう。
- ◆ 「連帯会議」改め「階級深部と共に」を発刊。大衆的な論議の場を作っていきたい。





# 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう!

(金日券 報対班)

敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう! 敵の越冬つぶしに勝ちぬこう!

# 昨日のカンパ523,543円でした。ありがとう。 今日越冬斗争にカンパを!

昨日は、アプレを取る仲間も少なく、仕事に出た仲間も少なかったため、モ千代を取る仲間も少なかった。今年の越冬は、二三年に比べ厳しいものがある。正月をこすためには、最悪でも十日のトヤ代を入手しなければならない。いこ、その間のメレ代もある。け、こうまとまった金があるのには、現状では仕事量が少ないためである。12月には増えると思うが不安定な状態だ。ワシントン屋にアプレは重要だ。特に冬のアプレは、冬に敵しく命に代わる。越冬斗争はアプレに対する行政大干渉をコンの番は、仲間同の命を仲間自身を守りながら、カンパにぜひ御協力を!

釜ヶ崎解放 '91 12.1 釜ヶ崎日雇労働組合  
〒57 大阪市西成区東之茶屋2丁目5-10  
釜ヶ崎解放会館内  
電話 06-632-4273

# 野宿している仲間のみなさん

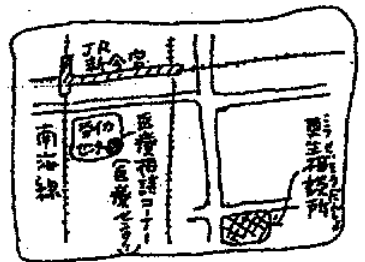
私たちは釜ヶ崎越冬斗争実行委員会は、大阪府に対し、労働者に対する血の通った臨時宿泊所対策を行なわせるため闘っています。

現状では、残念ながら南港の地へ遠く引き離され、また、入所数も年々切り縮められてしまっています。しかし、いずれは、釜ヶ崎近くに希望者全員が入れるような宿泊施設を作らせるまで闘いは続けられていかなければなりません。

今は、労働者の当然の権利として、どんどん南港へ入り、自ら命を冬地獄から守っていきましょう。

臨時宿泊所受付は  
29・30日 9時～午後2時  
市立更生相談所で。

越冬当日、市立更生相談所にいます。身体が真后がしんどい人は、先に医療センターの医療相談の所に来て下さい。



第22回釜ヶ崎越冬斗争実行委員会  
Tel 06-632-4273



89、90年 第20回越冬

88年4月、暴行、最低賃金  
10500円、好景気を反  
映して一挙1000円アッ  
プ。同月、宝塚行きうめ  
災害死亡発生。

5月→7月事故死糾弾斗争。  
死亡した労働者は韓国人出  
稼ぎであり、この年ぐら  
いから外国人出稼ぎが目立つ  
ようになる。

12月16日、越冬支援連帯集  
会。

23日、反天皇制関西集会。  
(主催、関西うねりの会な  
ど) 三角公園からナンバ  
までデモ。誕生日祝日反  
対「天皇制廃絶」。

25日、越冬突入集会。「差  
別・虐殺・天皇攻撃と対決  
し、労働報国会支配を打ち  
破れ」。集会終了後、映  
画「南京大虐殺」、医療セ  
ンター前に移動して布団し  
き。

26日、学習会「部落差別と  
釜ヶ崎」、部落解放同盟奈  
良県連の仲間をまじえ討論。

屋間、公園では第三回子供  
もちつき大会。この年は子  
ヨソ女友の会も参加。

28日、医療班による日中パ  
トロール。住之江区、出屋  
敷、京橋等でもアオカンの  
仲間があり、少年におそわ  
れたりしている事がわかつ  
た。

29日、臨泊受け付け。医療班  
を中心に押し込み斗争が行  
なわれたが、70才の老人を  
却下したり、骨折している  
仲間を入院させず臨泊にま  
わしたり、勝手な理屈をつ  
けて不当な却下をくりかえ  
す。却下された仲間には、

明日面接でがんばろうと訴  
える。夜、集中聴き体制。三  
班に分かれ釜地区内人バト。

30日、市更相で受け付けが終  
りかけた時、市にガードマ  
ンとして動員されていたバ  
イト学生が労働者に暴力を  
ふるうという事件が起きる。  
学生に不当却下を抗議した  
ところ、逃げだし、出くわ  
した別の労働者をなぐって  
逃げ去ろうとしたのだ。

(最終的には西成署が加害  
者を「保護」。) この件に  
対し、市更相藤井副所長が  
「事実確認をして、補償す  
る」と約束していたが、翌  
日、一転して「そういう事  
実はない、補償もしない」  
と居直る。更に市の差別的  
対応は、臨泊面接時におい  
ても露骨に行なわれた。約  
束をほこにして、人数制限  
をし、面会室には入れず、  
屋外で話をさせるといっ  
全く、收容所、としかいい  
様のない差別行政そのもの  
だ。

31日、高松から第二回越冬  
斗争の報告。瀬戸大橋プー  
ムの余波で好景気だが、高  
令者などが切り捨てられる  
状況は変わらず、又アジア人  
出稼ぎが急増、賃金をま  
もに払わない企業もある。  
...など四国北東地域労働組  
合より。夜、人バト帰還時  
に3名不当逮捕されるも翌  
日バイ。

90年1月1日、ボリの暴力  
機動隊による隊列分断にも

ひるむ事なく、連日人バト  
貫徹。

2日、団結もちつき大会大  
いに盛り上がる。

4日、大阪市抗議デモ。

「臨泊不当却下・差別暴行  
・面会拒否・殺人行政」大  
阪市・民生局を許すな!

6日、武山建設(南初島)  
争議始る。武山のオヤジは  
残業代を請求しに飯場に行  
った2名の労働者をナイフ

で刺し、重傷を負わせたの  
だ! (傷害で起訴、略式  
20万円金でバイ) 同日、  
医療班による病院集中心会。

朝日テシトによる三角公園  
からの現場中継もあった。

8日、学習会「労災、雇用  
保険しめつけとオおう」

10日、武山争議で大衆団交。  
事実確認と、オヤジ(社長)  
の謝罪文をかちとる。

11日、朝センターでオヤジ  
に謝罪させる。この日医療  
センター撤収。越冬自体は  
終るが、この夜から協友会

による夜回りが始る。(二  
月末まで)

12日、武山争議大衆団交。  
飯場の経営改善と労働条件  
向上などを確約させる。

さて、19回越冬時には学生  
美などで女性差別が問題に  
なっていたが、20回越冬で  
も差別問題などが続出した。

○人バト隊列から車イスの  
仲間を排除する発言が生じ  
た事。

○女性支援のアピールに  
「さつさとやめてポルノ映  
画でもやれ」というヤジが  
とんだ事と、その時の対応。

○医療班に参加した女性に  
対する暴行未遂事件。

○公園使用許可問題をめぐ  
って沖日労の自主的斗争を  
阻害する結果をもたらした  
事。

長くなるのでここでは事実  
経過、討論などは紹介しな  
い。前述の三点以外にも夏  
祭り中の女性差別発言など

もあり、合せて長い討論と  
なる。90年8月をすぎても  
結論はです。

闘争について

はやく書きあげて飯場に行  
こうと思つていましたが、  
終つた今ではすでに借金経  
済になっていました。

20回越冬以降、女性差別問  
題はすつと継続討論という  
事で、92年になつた今でも、

何ら結論めいたものはでて  
いないと思います。だせな  
いのならば、せめてどんな

差別事件があつたのか、き  
ちんとあとあとまで伝えて  
行くことが大切ではないか

と思います。個人的には、  
現時点では女性差別問題に  
積極的にかかわつていこう

とは思つていません。  
中枢神経に針の一本でも

打つて、性欲や、恋愛感情  
や、嫉妬心、独占欲等が一  
切消えてしまえば最高だ、

あとは酒とバク子専門でい  
ける! などと思つているし  
だい。

(1991~92) 第22回 釜ヶ崎越冬闘争 会計報告

収入の部

団体カンパ	1,060,000-
個人(支援)カンパ	211,000-
集会・公園カンパ	15,200-
労働者(当該)カンパ	19,630-
その他(弁当・衣類)カンパ	228,712-
計	1,534,542-

支出の部

雑費	14,335-
医療	29,141-
情報	110,412-
設営・資材	78,785-
文化・体育	145,349-
パトロール(医療)	16,805-
交通費(ガソリン等含む)	107,738-
活動費	54,554-
雑費	12,632-
部屋代	136,400-
炊事	608,905-
郵送費	9,267-
その他	34,385-
計	1,358,699-

1,534,542-  
- 1,358,699-  
175,843-

残高 ¥175,843-

☆ 2月15日現在・・・その後支出有り

☆ カンパの御協力ありがとうございます!今後とも宜しくお願いします。。